

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 17 年 6 月 16 日 (2005.6.16)

【公開番号】特開 2002-161665 (P2002-161665A)
 【公開日】平成 14 年 6 月 4 日 (2002.6.4)
 【出願番号】特願 2001-315230 (P2001-315230)
 【国際特許分類第 7 版】
 E 0 5 D 15/06
 【F I】
 E 0 5 D 15/06 1 2 5 C

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 9 月 13 日 (2004.9.13)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】特許請求の範囲
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

一側を壁 (9) に他側をレール (1) に連結することのできる取付け要素を有するレール (1) のための固定装置において、

取付け要素が、角形状を有しかつレール (1) を保持するために設けられた 2 つの腕 (21; 22) を有するストリップ (2) であり、第 1 の腕 (21) が壁 (9) に連結することのできる固定用ねじ (24) を通過させる開口 (23) を有し、第 2 の腕 (22) が、レール (1) に向って開口しかつレール (1) を保持する作用をする取付けねじ (32) にねじにより連結されるロック要素 (3) を把持し保持する作用をする T 形状の長手方向の溝 (25) を有し、

ロック要素 (3) が少なくとも略直平行六面体構造であり長手方向の配置で T 形状の長手方向の溝 (25) に導入され、回転されて保持位置とすることができ、その後に取り付けねじ (32) を締めつけることができる、ことを特徴とするレールのための固定装置。

【請求項 2】

開口 (23) が固定用ねじ (24) の頭部を保持するに適当な、第 1 の腕 (21) に沿って延びる溝 (26) の凹所に配置されていることを特徴とする請求項 1 に記載の固定装置。

【請求項 3】

レール (1) から離れて向き合う側に、第 1 の腕 (21) はスペーサ要素 (40) の保持用スプラインを把持する作用をする長手方向の溝 (27) が設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の固定装置。

【請求項 4】

金属から製造されたストリップ (2) の 2 つの腕 (21, 22) が相互に対し少なくとも直角となっていることを特徴とする請求項 1 から 3 のうちの 1 項に記載の固定装置。

【請求項 5】

ロック要素 (3) 又は関連の取付けねじ (32) のねじ部 (31) に粘性の物質又は塗料が付与されていることを特徴とする請求項 1 から 4 のうちの 1 項に記載の固定装置。

【請求項 6】

腕 (21, 22) の長さがレール (1) の寸法によって選択されレール (1) とストリップ (2) との間の遷移部の段部がなくなるようにしていることを特徴とする請求項 1 から 5 のうちの 1 項に記載の固定装置。

【請求項 7】

蓋（５０）をレール（１）とストリップ（２）との端部の上に配置することができることを特徴とする請求項 １ から ６ のうちの １ 項に記載の固定装置。

【請求項 8】

蓋（５０）にはＴ形形状の長手方向の溝（２５）又は溝（２６）に挿入することのできるピン（５１）が設けられていることを特徴とする請求項 １ から ７ のうちの １ 項に記載の固定装置。

【請求項 9】

レール（１）が、角形形状を有するストリップ（２）に挿入され、Ｔ形形状の長手方向の溝（２５）に導入されたロック要素（３）と対応の取付けねじ（３２）とによって保持されることを特徴とする請求項 １ から ８ のうちの １ 項に記載の固定装置。